

暮らし・にぎわい再生事業計画  
高知県新資料館整備地区

平成25年5月31日

高知県

## 1. 再生事業計画区域

### ①計画区域の位置

高知市追手筋2丁目24, 25番地、  
〃 帯屋町2丁目124, 126番地

### ②計画区域の面積

約0.4ha

### ③区域設定の考え方

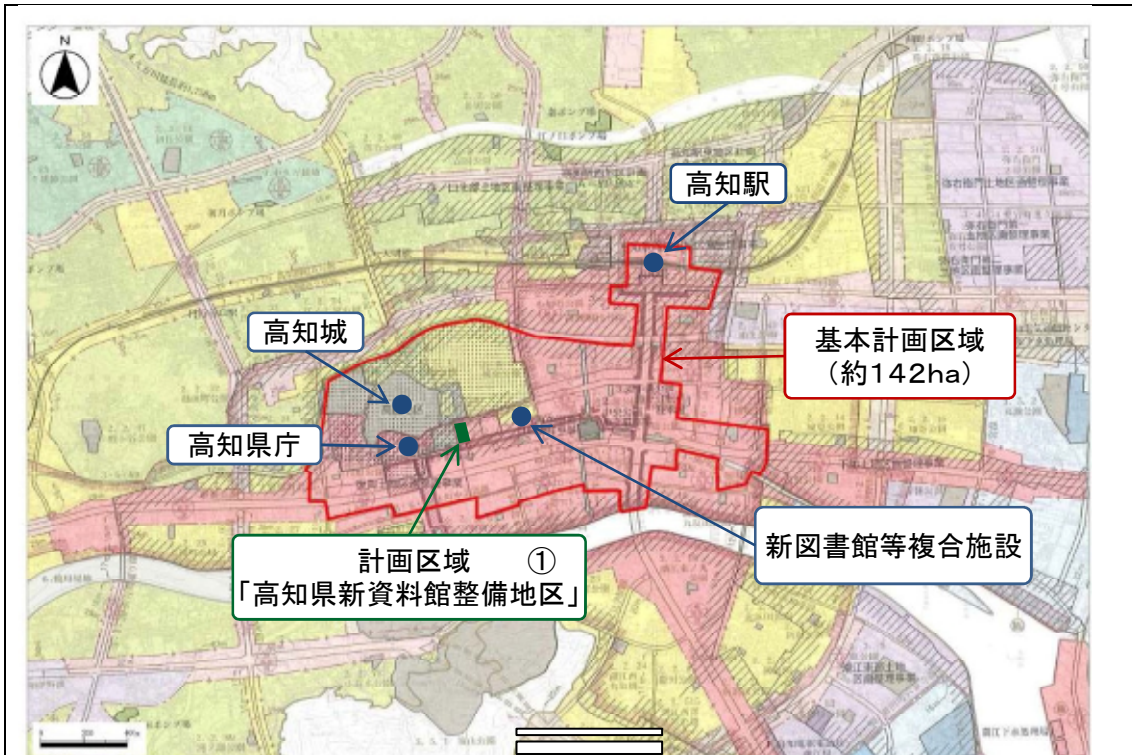
本地区は、高知市の中心市街地活性化基本計画区域のほぼ中央に位置し、基本計画の区域の中でもメインストリートである追手筋の西端にある。追手筋は、土佐藩主山内家の居城であった高知城の追手門に由来しており、一帯は、江戸時代から城下町として栄え、文化・教育施設も多い文教地域であり、中心商店街等の商業施設が集積した中心市街地の核となっていた場所である。

しかし、近年では、ライフスタイルの変化により、デパートや映画館などの大型商業施設の撤退が相次ぎ、中心商店街の老朽化も進み、郊外大型店の設置も影響して、周辺のにぎわいが失われつつある。

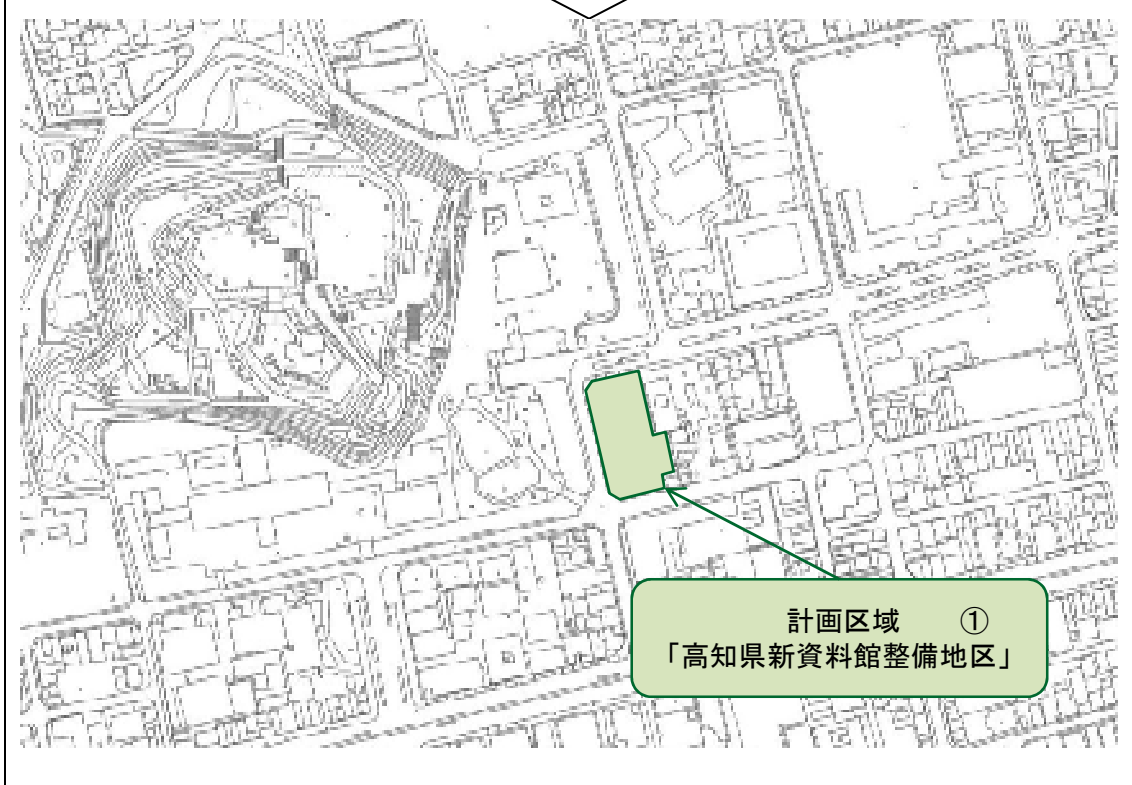
また、周期的に発生している南海地震では、津波・浸水被害が予想されている場所でありながら、一時的に避難できる中高層建築物も少なく、周辺住民や観光客への安全確保など、南海地震への備えが課題となっている。

このため、本地区では、暮らし・にぎわい再生事業の都市機能まちなか立地支援により、高知城に隣接する立地を活かして、土佐藩主山内家に伝来してきた山内家資料を核とした高知の歴史の魅力を発信する教育文化施設として、広範囲の地域住民及び県外からの観光客などの集客力を高め、展覧会事業のみならず、歴史や文化をテーマとした「まちあるき」ルートの紹介等の教育普及事業を展開するとともに、南海地震の津波・浸水時の一時避難先としても活用される歴史系の新資料館を整備する。これにより、まちなかの賑わいの増加、回遊性の向上、防災機能向上などを実現し、中心市街地活性化、地域の安全確保に寄与することを目的として計画区域を設定した。

【位置図】



(計画区域の拡大図)



## 2. 総事業費

約5,105百万円

## 3. 暮らし・にぎわい再生事業計画区域の整備方針

1)再生事業計画区域が抱える課題	・中心市街地の居住人口 平成14年度5,962人 → 平成23年度4,964人 約16.7%減 (全市人口の1.8%減に比べ減少率大)
2)再生事業計画区域で整備する予定の都市機能導入施設	・高知県新資料館
3)都市機能まちなか立地支援の整備効果	高知城に隣接する立地を活かし、広範囲の地域住民及び県外からの観光客の利用が見込まれる歴史系の新資料館を整備することにより、にぎわいの増加、商店街の振興、利便性向上等に寄与し、中心市街地の活性化が図られる。 南海地震の津波・浸水時の一時避難施設として活用することで、周辺地域の安全を確保する。

#### 4. 都市機能導入施設の整備計画の概要

##### 【事業概要】

番号	補助対象施設	補助種別	補助区分	公益施設の種類	事業期間
①	高知県新資料館	コア事業	都市機能まちなか立地支援	教育文化施設	H25-H27

##### 【事業スケジュール】

番号	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度
①	埋文調査 ●●●●●●●●●● ●●●●●●●●●● 実施設計 ●●●●●●●●●●	建築工事 ←●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●	●開館

#### 5. 整備計画に従って行われる主要な事業の概要(個別)

##### 【個別施設概要】

番号	①	施設名	高知県新資料館	事業期間	H25~H27
補助種別			コア事業	補助区分	都市機能まちなか立地支援
階数			地上3階	構造	耐火構造
敷地面積(m <sup>2</sup> )			4,000 m <sup>2</sup>	延床面積(m <sup>2</sup> )	5,000 m <sup>2</sup>
施設用途(都市機能導入施設の概要)					
教育文化施設					

#### 6. 提出参考資料

高知市中心市街地活性化基本計画の写し